

ガス化溶融炉	<ul style="list-style-type: none"> ・高温でごみを処理するため、ダイオキシン類の生成をさらに抑制できる。 ・排ガス量が少なく、有害物質の排出総量を減らすことができる。 ・ごみ処理時の熱の回収ができる。 ・残渣の発生量が少なく、埋立処分量を減らすことができる。 ・溶融スラッグの資源化が可能。 ・鉄やアルミの資源化が容易。 ・重金属類が含まれる残渣の安定化及び無害化を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本来はごみの自己熱を利用して溶融するが、ごみのカロリーが下がると化石燃料を使用しなければならない。 ・溶融スラッグの利用が滞っているケースがある。
炭化炉	<ul style="list-style-type: none"> ・排ガス量が少なく、有害物質の排出総量を減らすことができる。 ・エネルギーの一部を炭化物として回収することができ、化石燃料の代替が図れる。 ・炭化物の資源化が可能。 ・残渣の発生量が少なく、埋立処分量を減らすことができる。 ・鉄やアルミの資源化が容易。 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭化物の利用が滞っているケースがある。

■環境影響評価（環境アセスメント）の実施

環境影響評価（環境アセスメント）とは、ごみ処理施設の建設に際し、あらかじめ環境に与える影響を調査・予測・評価し、その内容について、住民や関係自治体などの意見を聴くことにより、さらに環境に配慮した事業にしていけるための制度で、「長野県環境影響評価条例」に基づいて実施するものです。

○環境アセスメントの実施予定期間

平成23年度から平成25年度にかけて方法書、準備書、評価書を作成する予定です。

①方法書の作成 環境アセスメントの調査手法を記載したものです。公告・縦覧を経て、広くご意見を伺う中で調査手法を確定させていきます。

※方法書を審議する「長野県環境影響評価技術委員会」が10月13日岡谷市役所9階大会議室で開催される予定です。

②準備書の作成 方法書に基づき、1年間の現地調査を行ったうえで環境に与える影響を予測・評価し、影響の程度を明らかにします。この準備書についても公告・縦覧により皆さんからのご意見を広く伺います。

③評価書の作成 準備書に対する意見について事業者の見解を示し、評価書として取りまとめます。

○環境アセスメントの対象とする環境要素

「長野県環境影響評価条例」で示されている18項目の環境要素の中から、予備調査等により実際に調査を行う環境要素や調査方法等を確定します。また、ご意見をお伺いする中から、特に大気質について重点的に調査・予測をしたり、地域や事業の特性にも配慮して行っていきます。

◆大気質	◆騒音	◆振動	◆低周波音	◆悪臭	◆水質
◆水象	◆土壌汚染	◆地形・地質	◆植物	◆動物	◆生態系
◆景観	◆触れ合い活動の場	◆廃棄物等	◆温室効果ガス等		

※地盤沈下と文化財については、予備調査の結果、影響はないと考え影響評価は行わない予定

○重点的に行う調査・予測

新施設からの煙の影響を心配されるご意見や複雑な地形による影響を考慮して、特に大気質について重点的に調査や予測を行います。また、関係車両が走行する地域についても、大気質に対する影響の程度について調査や予測を行います。

影響要因	予測・評価内容	
工事中	資材の運搬	車両の通行による排ガスの影響を予測、評価します。
	ごみ収集車の走行	工事期間中は、岡谷市の可燃ごみの処理を委託するため、この間のごみ収集車の走行による排ガスの影響を予測、評価します。
	解体工事、建設工事	建設機械からの排ガスや粉じんの巻上げの影響を予測、評価します。
施設稼働後	ごみ収集車の走行	ごみ収集車の走行による道路周辺の排ガスの影響を予測、評価します。
	施設からの排ガス	ごみ処理に伴う煙の影響を予測、評価します。複雑地形の影響を考慮した拡散シミュレーションによる予測を行います。

■お問い合わせ先

湖周行政事務組合 電話23-4811（内線1571～1573）

下諏訪町役場 住民環境課 生活環境係 電話27-1111（内線141）

～新しいごみ処理施設の建設に向けて～ 湖周行政事務組合がスタート!

岡谷市・諏訪市・下諏訪町の2市1町の湖周地区におけるごみ処理を広域的に共同で行うため、その事業主体となる湖周行政事務組合が9月1日に発足しました。今後ごみ処理に関する施策の円滑な実施を図り、循環型社会の構築を目指し、新施設の稼働に向けて取り組んでまいります。



■組合規約の内容

組合の名称	湖周行政事務組合
組合を組織する市町	岡谷市・諏訪市・下諏訪町
組合の共同処理する事務	①ごみ処理計画に関する事務 ②ごみ処理施設の設置、管理及び運営に関する事務
組合の事務所の位置	岡谷市役所内
組合の議会	議員定数12人（岡谷市4人・諏訪市4人・下諏訪町4人）
組合の執行機関	組合長（岡谷市長） 副組合長（諏訪市長・下諏訪町長・岡谷市副市長） 会計管理者（岡谷市会計管理者）
組織市町負担割合	①建設的経費 均等割10%・実績割90% ②経常的経費 ア 事務的経費 均等割10%・実績割90% イ 運営経費 実績割100%

■湖周地区ごみ処理施設建設スケジュール【建設予定地 岡谷市内山：岡谷市清掃工場敷地内】

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
業	前倒し業務(アセス方法書、処理方式検討・決定、地域計画策定)					
		環境影響評価調査	準備書作成	評価書作成		
務		測量・地質調査・施設基本設計等				新施設稼働
			工事概略設計			
工			工事実施設計			
				新施設建設		
				旧施設解体		

■ごみ処理方式の検討

湖周地区の新たなごみ処理施設を整備するため、住民代表者、学識経験者及び行政代表者による検討委員会を設置し、新施設の処理方式を検討していきます。

概ね4回の会議や施設見学等により、処理方式に関する調査、研究及び検討を行い、来年の早い時期には委員会としての決定をし、組合長へ提言していただく予定です。

○検討委員会の構成

住民代表者 7人（岡谷市3人、諏訪市及び下諏訪町各2人）

学識経験者 2人（ごみ処理施設の処理方式という専門分野において、高度な知識と経験を有する者）

行政代表者 3人（岡谷市副市長・諏訪市副市長・下諏訪町副町長）

○ごみ処理施設の環境保全評価

ごみ処理基本計画において選定された4方式について、減量化・資源化効果を踏まえた環境保全に係る評価は次のとおりです。

ごみ処理技術	環境保全評価	
	好ましい面	好ましくない面
ごみ焼却施設（ストーカ炉）	・ごみ処理時に発生する熱の回収ができる。	・ごみ処理量の1割程の残渣が発生し、埋立処分しなければならない。 ・重金属類が含まれる残渣の安定化及び無害化が必要となる。
灰溶融炉（ストーカ炉併設）	・灰を溶融することで埋立処分量を減らすことができる。 ・溶融スラッグの資源化が可能。 ・重金属類を含む残渣の安定化及び無害化を図れるほか、金属の回収、資源化の可能性もある。	・灰のカロリーが低く、溶融のために多量の化石燃料を使用しなければならない。 ・溶融スラッグの利用が滞っているケースがある。